

# ろくおん 通信

2019年12月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 竹下 亘

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

http://www.iccb.jp/

# No.237

## 今号の内容

- ◎ 聴いてわかる録音図書をつくるために（第50回）……………1ページ  
校正について ～訂正すれば良くなるのか、を考える～
- ◎ 「ウェブスタジオ・なにわ」が新しくなります ……………2ページ
- ◎ わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第23回） ……………5ページ  
編集作業のまとめ

## 聴いてわかる録音図書をつくるために（第50回）

### 校正について ～訂正すれば良くなるのか、を考える～

録音製作係 木田陽子

録音図書の校正とは、原本の内容が正しく伝えられているかどうかを確認する工程です。訂正が必要な箇所を指摘する時には、「訂正した後のほうが良くなるかどうか」という基準で、校正表に記入するかどうかを選択してください。

…とよく聞くのですが、「原本の内容を正しく伝える」ためには、間違いを徹底的に直すべきではないだろうか、というご意見もあるかと思えます。

下の文章をご覧ください。

ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっ  
ていらっしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白  
で、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ  
あふ  
溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう。

（芥川龍之介『蜘蛛の糸』より）

文章自体の間違い（誤植）はありません。しかし文字の書体がコロコロ変わっているので、非常に読みづらい見た目になっています。

修正を繰り返した録音図書というのは、このような状態なのではないでしょうか。誤読も訂正したし、アクセントも正しい。けれども前後の文章と比べれば、音量や読みのスピードが違う。聴いていると「声が変わった…あっ、また変わった…」と、そちらに気をとられてしまい内容が頭に入っていない。そんな状態です。

最初に音訳者が調査をしっかりと行い、収録前に下読み（練習）をしていれば、読み間違いを防げるかもしれません。しかし、どんなベテランでも本1冊を誤読なしで読み切ることは不可能です（裏を返せば「誰にでも間違いはある」ということです）。

音訳者がその場で間違いに気づけば、違和感なく訂正できるかもしれません。とはいえ、実際のところは、音訳から訂正までの間に、長い時は数ヶ月が経ち、声の調子が変わってしまうことが多いのではないのでしょうか。

ここで、校正ではどんなことを指摘すればよいかを整理してみます。

『音訳マニュアル【音訳・調査編】』に掲載された「校正のチェックポイント」には、以下のようなポイントが紹介されています（改訂版では112～114頁。テープ図書に関する項目は省略）。

#### （1）構成面

1. 枠アナウンス前後の余白時間／2. 録音順序・枠アナウンス
3. ディスクのボリューム情報

#### （2）録音技術面

- ①音量・音質／②雑音
- ③その他（不要な空白部分がないか、訂正箇所<sup>ま</sup>に頭切れ・消し残し等がないか）

#### （3）音訳技術面

- ①誤読／②発声・発音／③処理／④アクセント／⑤言葉のつながり
- ⑥読みのスピード

2017年の「全国視覚障害者情報提供施設大会」録音分科会では、サピエ利用者からの「こんなところに注意してほしい」という要望のまとめが発表されました。

不自然な音の高低・イントネーション／読み癖・抑揚／間<sup>ま</sup>／発声・発音  
音量（音が小さい、ばらつきが大きすぎる、など）

音質（ノイズが入っている、息継ぎが聞こえる、音がこもっている、など）

デージー編集（レベル1でしか移動できない、見出しにしかページがない）

また、「原本通りに読むこと」が「原本の内容を正しく伝えること」になっているかどうかにも検討する必要があります。書かれている通りに読んでいても、同音異義語がいくつも浮かんで特定できないようでは、録音図書の再生スピードについていけなくなります。それに、耳慣れない造語をそのまま音読みしても、利用者に内容が伝わらなければ意味がありません。必要であれば字の説明を入れるなどして、一度聞いただけで内容がわかる読み方をすることが大切です。

つぎはぎだらけで聴きづらい図書にしないためには、訂正箇所を少なくする必要があります。では、校正者はどんな箇所を優先して修正依頼をすればよいでしょうか。

次回から数回に分けて、「より良い録音図書にするにはどう校正するか」を考えていきたいと思えます。



## 「ウェブスタジオ・なにわ」が新しくなります

現在、「ウェブスタジオ・なにわ」の改修作業を行っています。年度内に移行する予定です。主な変更点をご説明いたします。

### 音訳データ送信画面

- ・ Internet Explorer 以外のウェブブラウザからも、音声データの送受信が可能に。  
これまで音訳データや校正票の送受信をする際は、Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）を使うしかありませんでした。  
改修後はそれ以外のウェブブラウザ（インターネットを閲覧するためのソフトウェア）からでも送受信ができるようになります。たとえば Microsoft Edge（マイクロソフト エッジ）、Google Chrome（グーグル クローム）、Firefox（ファイアーフォックス）などです。
- ・ 送信画面が変更になります（次頁の図参照）。
  - ① 1つ目の画面でページ数・行数・製作範囲外のチェックを入れます。  
次の画面へ進んでから、音声データを選択します（ここが一番の変更点）。
  - ② 音声データを選んだあとは、自動的に送信が始まります。



### 下調べ票

- ・過去に下調べ票に入力した語句を、後から検索できるようになります（ただし「状態」欄が「調査結果」のもののみ）。

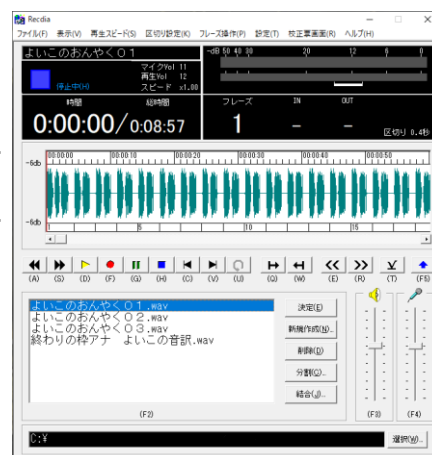
### 連絡票

- ・重要だと思った連絡票に印をつけられるようになります。印をつけたものだけをまとめて表示することもできます。
- ・BCC での送信ができるようになります。たとえば複数人に同じ文章を送信した時、受信した側にはずらりと受信者全員の名前が並んでいました。今後、BCC 欄に入れた人（受信者）の名前は表示されない仕組みになります。

### ソフト「Recdia」の画面

- ・Recdia にも新たな機能が盛り込まれます。音量が波形で表示されますので、音量の変化を目で確認することができます。

波形



## ★ 係より補足： Recdia の時間表示を編集者に伝える

No. 234（2019年6月）で、修正録音時に「Recdia で表示される時間を、校正票（校正表）に記入してください」というお願いを掲載しました。この件について補足いたします。

デジ編集では、まず全ての音声データを編集ソフト（たとえば PRS Pro）に取り込んで、1つの作業用データを作成します。その後、Recdia で収録した時のファイルの区切り方（約60分ごとに1つ）とは違う分け方、つまり章や節ごとに音声のかたまり（セクション）で分けていきます。

後から訂正音源を取り込む時には、音声を聞きながら目的の箇所を探し出すことになり  
ます。だいたいの録音時間を推測する方法としては、以下のような例があります。

- ① モニターあるいは校正者のメモした時間を参考にする。
- ② ウェブ校正票を開き、校正者（2校）の指摘事項から「14 ページ3行目が1枚目  
の18分30秒で、16 ページ19行目が21分55秒だったから、今回訂正された15ペ  
ージ8行目は20分前後かな…」と推測し、そのあたりを再生して根気よく探す。

校正者が使用した原本を編集者が引き継ぐので、その原本に時間のメモがなければ①の  
方法が使えません。そのため、特に家庭録音の場合には「およそ何分くらい（のところが  
訂正した）」とウェブ校正票の「備考」欄に書き添えていただくと、編集者の負担は軽く  
なります。



## わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説(第23回)

デイジー図書のしくみを解説するこのコーナーでは、デイジー編集ソフトウェア「PRS  
Pro」を使った編集作業を紹介してきました。

今回は一連の編集作業のまとめです。完成品CD作成後の“最終校正者による校正”も合  
わせて紹介します。

### ◆デイジー校正依頼までの編集作業の流れ

#### 1、デイジー図書製作前の検討 .....No. 223 (2017年8月)

- ① どのように利用される図書なのかを考え、編集方針を立てる
- ② 目次と本文の見出しの照合
- ③ 階層（レベル）、グループチェック、デイジー図書凡例について考える など

#### 2、編集準備 .....No. 225 (2017年12月)

- ① パソコン内に編集作業用のフォルダ作成
- ② 「PRS Pro」を起動し、新しい図書を作成する設定をする

### 3、音声データの取り込み ……………No. 226 (2018年2月)

音声データを「PRS Pro」上で編集できるように取りこむ作業です。方法は3つありますが、No. 226では「音声インポート」について紹介しています。

### 4、実際のデジ編集作業

- ① セクション分けと階層化 (No. 227、228)
- ② 見出しの入力 (No. 228「ブラッシュアップコーナー」)
- ③ フレーズの結合、削除、コピー、切り取り、貼り付け、分割など (No. 229)
- ④ ページを付ける (ページチェック) (No. 230)
- ⑤ グループの印を付ける (グループチェック) (No. 231)
- ⑥ 間<sup>ま</sup>や雑音、音量の調整、不要なフレーズの削除などを適宜行う (No. 233)
- ⑦ 同時に校正作業も行い、修正録音や追加録音を依頼する (No. 234)
- ⑧ 修正録音や追加録音したデータを音声インポートし、再編集 (No. 234)
- ⑨ 「書誌情報」の入力と確認 (No. 227「ブラッシュアップコーナー」)
- ⑩ デジ校正用CD作成 (No. 235「ブラッシュアップコーナー」)

### 5. デジ校正依頼

#### ◆ デジ校正依頼後～デジ図書完成までの流れ

- ① デジ校正者の校正票に基づいて、修正録音や追加録音を音訳者に依頼
- ② 再編集 (No. 234「ブラッシュアップコーナー」)
- ③ 完成品CD作成前の確認作業 (No. 236「ブラッシュアップコーナー」)
- ④ 完成品CDの作成 (No. 235、236「ブラッシュアップコーナー」)
- ⑤ 最終チェック

#### ◆ 最終校正者による校正について

当センターでは、「最終チェック」あるいは「ブックトラックのチェック」と呼んでいる作業です。「デジ校正表」で修正録音された箇所のチェックが主な目的です。重要な確認作業は以下の2つです。

- ① デジ校正で修正録音や追加録音された箇所の、再編集に不具合はないか
- ② 完成品CDの使い勝手に不具合はないか

今号の「編集者ブラッシュアップコーナー」で詳しい内容を紹介しています。

## 編集者ブラッシュアップコーナー

最終校正者による校正（最終チェック）で確認していること

### 【パソコン画面で確認】

- ① 書誌情報
- ② 第1セクション、第1フレーズ「書名（巻次）・副書名」のワンフレーズ化
- ③ デイジー図書凡例を聞く
- ④ 「デイジー校正表」で修正録音された箇所のチェック
- ⑤ 「見出し入力」画面で修正された箇所のチェック
- ⑥ マークやコメントが残っていないか
- ⑦ 各セクションの最終フレーズが無音になっていないか

### 【プレクストークで確認】

- ① 目次、本文の見出し項目が1フレーズになっているか（一部確認）
- ② セクション、グループの移動ができるか（一部確認）
- ③ 最終セクションのページは合っているか
- ④ 「終わりの枠」は合っているか
- ⑤ 「終わりの枠」の後に音声が残っていないか
- ⑥ 製作年が最初と最後で合っているか

## 編集者 Q&A

Q. 最終チェックでは、どのような不具合が見つかるのでしょうか？

A. よくあるのは、書誌情報の「DAISY 発行年月日」の入力もれです。最後に「製作完了日」が決まるので、忘れがちになるようです。以下は、最近見つけた不具合の一例ですが、①～⑤はできるだけデイジー校正の段階であげていただきたい項目です。

- ① 第1セクション、第1フレーズの書名（巻次）・副書名がワンフレーズ化されていない
- ② デイジー図書凡例通りにグループ化されていない
- ③ 再編集で取りこんだ修正データや、修正前の音声データが残っている
- ④ 修正録音した箇所に不自然な間がある（長すぎる、または短すぎる場合）
- ⑤ 各セクションの最終フレーズが無音になっている
- ⑥ 最初の製作年と最後の製作年が合っていない
- ⑦ マークが残っている

編集者へのお願い① ～完成品CDケースの用紙への記入について～

特に、以下の項目について記入漏れがないか、ご確認をお願いいたします。

- 校正者……モニター（1校正者）、2校正者、デジ校正者をすべて記入

※ デジ校正者が抜けていることがよくあります

- 発行日……原本の奥付参照

- 時間 ……「〇：〇〇（分まで。秒は切り捨て）」

以下のいずれかの方法で確認

① PRS 画面上にある ツール クリック → ディスク情報

② 見出しプリントアウトの「書誌情報」欄

③ プレクストークなど、再生機の「トータル時間」アナウンス

- 総ページ…最終ページのページ付け

- 製作日……終わりの枠で録音されている製作完了年月日

編集者へのお願い② ～デジ校正表のセクション数記入欄について～

最終チェックでは、デジ校正表に書かれたセクション数を頼りに、修正箇所を探し出してチェックを行っています。

再編集でセクションの数が変わった（セクションを増やした、または減らした）場合、「デジ校正表」のセクション数記入欄の数字を書き直していただくようお願いいたします。

なお、フレーズ数は少々前後していても問題はありません。



**館からのお知らせ**

★ 休室のお知らせ

12月28日（土）～1月4日（土）：冬期休業期間

※年末の活動は 12月27日（金）16時まで、  
年始は 1月7日（火）から 再開です。

1月11日（土）：成人の日の振替休館